

131 第六回東京法学院懸賞討論会報告

〔「法学新報」第一一一号 明治三十三年六月二十日〕

○第六回東京法学院懸賞討論会報告

客月二十七日正午十二時より開会、集る者殆んど二千人、闐然として堂外に溢る出題者羽生講師議長席に着き順次討論を始む討論申込者凡そ五十余名、抽籤を以て其の席順を定め敢て其の人数を限らず唯た時間を制限して成る可く多数の者をして討論せしめんと期す当日は新進の弁護士数名の来会せらるゝあり又た法科大学生もチラホラ見受けられたり今ま後日の引例の爲め其の次第を略記せんに先づ場の中央ボールドには左の問題を掲ぐ

甲、乙を殺さんと欲し無害の薬品を毒薬なりと誤信し乙に飲ましむる牛乳中に混和せり然るに茲に丙なる者あり又乙を殺

さんと欲し真正の毒薬を其中に入れたり甲之を知らずして乙に飲用せしめ乙は中毒して終に死亡せり甲は殺人罪を以て論ずることを得るや

其上には高く『討論は一人に付二十分を越ゆ可らず討論は一時に始まり六時に終る』との掲示あり尚ほ其下に賞品目録を標榜す即ち左の如し

第一等 独逸、民法論一部四冊

第二等 刑法析義一部二冊

第三等 ホール国際公法一冊

会長寄贈

第一等、第二等、第三等の者に

露西亞之国会

手附

吉野山林

過失論

番外第一等の者に

過失論

手附

周代五家之組合

楚國相統法

番外第二等の者に

過失論

手附

周代五家之組合

番外第三等の者に

過失論

亞弗利加之前途（又はストイツク哲学と羅馬法）

先づ幹事中西祐開会の趣意を述べ会長の欠席せること、寄贈せること、学期試験切迫せるを以て之にて休会のこと等を報告し其れより積極論者としては毒薬既遂犯説、未遂犯説其の他有罪説を主張する者を一団と為し江波戸龜治、久保田良行、溝部信孝、小野勇次郎、松坂甫、山本宮市、山口昇、橋井清五郎等相踵で起ち又た消極論者には長岡熊雄、山田芳彦、作美一平、山田辰之進、山田三郎、戸島威成、森川源吾、藤田幸太郎の諸氏之に應し午後四時一先づ休憩し更に開会神田常吉、渡邊十寸穂、山田藤太郎、竹村多傳重、岩井正次郎、石尾廣吉、伊藤政重、中西彦太郎、米村富喜、鈴木常吉の諸氏の討論あり午後六時議長は討論終結を告げ別室に入りて審査を為す此間尚ほ院友大塚善太郎、弁護士野村安次郎、同上内恒三郎、三氏の討論ありて左の諸氏に懸賞を行ひ式終りて散会したるは殆んど七時なりき

第一等賞 森川源吾君

第二等賞 山本宮市君

第三等賞 岩井正次郎君

番外第一等賞 伊藤政重君

番外第二等賞 山田辰之進君

番外第三等賞 神田常吉君

同 山口昇君